

Title	霊的癒し(スピリチュアルケア) (窪寺俊之講演「傷ついた魂へのスピリチュアルケア」への応答)
Author(s)	尹, 哲昊 洛, 雲海・訳
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.59, 2015.3 : 25-30
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5487
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

窪寺俊之講演 「傷ついた魂へのスピリチュアルケア」への応答

靈的癒し（スピリチュアルケア）⁽¹⁾

尹^{ユン}

哲^{チヨル}
昊^ホ
洛雲海^{ナグネ}・訳

キリスト教における靈的癒し（スピリチュアルケア）は、単にひとりの人が別の人を心理的に治療することを意味するのではなく、神との関係が回復されることにより、聖靈において人間の全存在（靈・魂と体⁽²⁾）が癒（ケア）されることを意味する。旧約聖書においては、神が人間に吹き入れた靈（ネシャマー、ルーアハ）は神の靈である。この神の靈は、土をもつて形づくられた人間の体（アダマ）から、生きている靈（ネフェシユ・ハーヤー、生きている存在〈靈・魂〉）を創り発出させ維持させる、生きている靈の力ならびにその原理である。神がこの靈を取り上げられると、われわれは再び土へと返る。「御顔を隠されれば恐れ／息吹を取り上げられれば彼らは息絶え／元の塵に返る」（詩編一〇四・二九）。人間が神の靈をもつて形づくられた靈的存在であるということは、人間が他の被造物とは異なり、神との人格的、対話的關係の中に存在するという意味である。人間にとって死とは本質的にこの關係の断絶、すなわち靈的な死を意味する。この關係の断絶をもたらすものが罪の本質である。

したがって、人間の靈的癒し（スピリチュアルケア）は、何よりも人間の罪の悔い改めと神による罪の赦しから来

るのである。われわれが神の御前でわれわれの罪を悔い改めるとき、そして神がわれわれの罪をお赦しくださり、われわれの内に正直な霊を新しくされ、これを清いものとしてくださるとき、われわれは霊的に癒され全的に穩健な者とされるのである。「ヒソプの枝でわたしの罪を払ってください／わたしが清くなるように。／わたしを洗ってください／雪よりも白くなるように。／喜び祝う声を聞かせてください／あなたによって砕かれたこの骨が喜び躍るように。／わたしの罪に御顔を向けず／咎をことごとくぬぐってください。／神よ、わたしの内に清い心を創造し／新しく確かな霊を授けてください。／御前からわたしを退けず／あなたの聖なる霊を取り上げないでください。／……しかし、神の求めるいけにえは打ち砕かれた霊。／打ち砕かれ悔いる心を／神よ、あなたは侮られませぬ」（詩編五一・九—一三、一九）⁽³⁾。

がんのような病によって苦しみを受け、死の前で恐怖に捕らわれている人々に対する霊的癒し（スピリチュアルケア）も、神の霊すなわち聖霊からもたらされる。聖霊はわれわれを治療する光線である。「しかし、わが名を畏れ敬うあなたたちには／義の太陽が昇る。／その翼にはいやす力がある。／あなたたちは牛舎の子牛のように／踊り出て跳び回る」（マラキ三・二〇）⁽⁴⁾。霊的癒し（スピリチュアルケア）は、時折からだの癒しを伴う。また、われわれはいつでも霊や魂の癒しと共にからだの癒しの起こることを祈る。しかし、からだの癒しが伴わない場合にも、霊的癒しは依然として有効である。なぜなら、神の霊がわれわれの霊と魂をお守りくださることによって、われわれは神との全的かつ穩健な関係にあつて平安の内に希望をもつて死を迎えることができるからである。「わたしに命と恵みを約束し／あなたの加護によって／わたしの霊は保たれていました」（ヨブ一〇・一二）。

東日本大震災や津波のような災難により苦しみを受けている人々に対する霊的癒し（スピリチュアルケア）も、ひたすら神の霊にあつて神の霊を通してのみ可能となる。われわれはどのようにして彼らを慰め、彼らのために祈るべきなのかかわからない。ひたすら聖霊のうめきと祈りだけが彼らを慰めることができる。「同様に、⁵霊も弱いわたしたちを

助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、¹「霊」自らが、言葉に表せないうめきをもつて執り成してくださいるからです」（ローマ八・二六）。しかし、この言葉はわたしたちが彼らのために何もすることができないとか、する必要もないということの意味するものではない。なぜなら、聖霊の慰めや癒しは、同僚である人間としてのわれわれの慰めや治療行為を要請するからである。

もちろん、われわれが聖霊の力と恩寵において行う霊的ケアは、イエスがお見せくださった形のように宗教的な教理や制度に束縛された宗派的な宗教的治療となる必要はない。しかし、われわれはなおかつ「その人の霊性を支え、また強化することに焦点を合わせる治療法」を越えて、彼らを神との関係において導く必要がある。なぜなら、霊性とは根本的に神との人格的な関係を意味し、神との全的で穩健なる関係回復が霊的癒しの目的であり、人間における神の似姿の完成だからである。

われわれキリスト者は、聖霊の恵みにおいて自らの傷や苦しみが癒された者として、他の人々の霊や魂を治療する癒し人としての召しを受ける。すなわち、われわれはすべて「癒された癒し人」として他の人の傷や苦しみを治療する働きへと召されているということだ。霊的癒し（スピリチュアルケア）の原理は、イエス・キリストがお見せくださった「われわれの弱さに同情される」共感的愛（empathetic love）である。「この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかつたが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです」（ヘブライ四・一五）。イエス・キリストの十字架は罪人とご自身を同一視し、他のすべての人間の罪と死という運命を負い、代わりに死を引き受けたイエス・キリストにおける神の「自己犠牲的な共感的愛」（self-sacrificing empathetic love）の究極的表現である。この愛が、人間と世を癒し救うのである。それゆえ、霊的な癒し人としてのわれわれが、傷ついて苦しんでいる隣人に向かって携え行くべきものは、イエス・キリストにおいて現れた「共に苦しむ共感的愛」である。聖霊の力はこのような共感的愛の力である。この聖霊の力が共感的愛において隣人の苦しみと悲しみを共にするわれわ

れを通して現れるところに、靈的癒しと救いの働きが起こるのである。われわれキリスト者はすべてこの働きのために召されたのである。

あらゆる神秘をお備えの大いなる神様、

絶対絶望的この現実のただ中で

私の思いは空回りします。

驚いた小鳥たちのように、私の言葉が空しく出で来るとき、

どうぞ私に静けさをもたらししてください。

両の手を合わせ

私の心の悲しみを覆いかぶせられるようにしてください。

私に恵みをください

静かに耐え忍ぶ中、あなたを崇められるようにしてください。

あなたは私が存じているよりも

もつと私の近くにいらつしやり、

私が想像するよりも、もつと近くていらつしやいます。

私があなただけのことを発見できないのなら、

それは、私があまりに遠いところを探しているからです。

私が痛みを感じるより先に、あなたの方で痛みを覚えてくださり、

重荷で押さえつけられるより先に、あなたはそれを私から取り除いてくださり、
悲しみのため、私の心が暗く憂鬱になるより先に
あなたの方でまず悲しんでくださいました。
あなたは闇の谷にもいらつしやいます。そのようにして
私の善き羊飼いとなられ

あなたと共にある間、私を守り支えてくださって、
私が弱さの中に倒れないようにしてください。

たとえ痛みによる刺激が深まり行くとも、

いつでもあなたが望まれる道を歩む者とならせ、

私を導いて、あらゆる危険を乗り越えられるようにしてください。

イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン⁽⁵⁾

(シン・ヒョンボク 『私の魂の癒しの祈り』^(*) より)

注

* 신현복 (シン・ヒョンボク) 『내 영혼의 치유기도—세계적인 명기도문과 함께 하는 (私の魂の癒しの祈り—世界的な祈りの文と共にある)』 (서울: 아침영양지도연구원, 2008)。

訳注

(1) 尹教授の韓国語によるレスポンス原稿の表題は「靈的治癒」。これは窪寺俊之教授の講演原稿中、日本語で「スピリチュアルケア」とされた言葉に当てられた尹教授による応答的訳語である。そこには両者共にそれぞれの言葉に対するそれぞれの解釈が深く関わっているはずであり、それが各者の発表全体に色濃く反映されていることが認められる。そこで、訳者は「靈的治癒」に対する訳語を「靈的癒し（スピリチュアルケア）」としたものである。

(2) 聖書の日本語訳において一般に「靈」と訳される言葉は韓国語でも「靈」と訳されるのに対し、日本語訳聖書で「魂」と訳される言葉は韓国語聖書では「靈魂」と訳される。しかし、韓国語で「靈魂」と記された部分はいつでも日本語では「魂」と訳せば良いかといえは、そうはいかないことがある。この部分がまさにそれに該当する。ここでは人間存在をどのように見なすかという神学的解釈問題を考慮して、韓国語の「靈魂」を「魂」とだけ置き換えず、「靈・魂」としたものである。なお訳注5も参照のこと。

(3) 韓国語本文では、詩編五一・七一―一、一七。

(4) 韓国語本文では、マラキ四・二。この箇所を韓国語から邦訳すると、「わたしの名を畏れ敬うあなたには公義の太陽が昇り光線をもって照らすので、あなたがたは出て行って牛舎から出て来た子牛のように跳び回る」（改訳改訂版）となる。そこから、「光線」という比喩が本文中で使われることとなった。

(5) 本著作の韓国語書名にある「靈魂」は、訳注2にしたがえば「靈・魂」と訳すべきであろうが、ここではあえて「魂」と訳した。